

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ講座 准教授
氏名 Name	古谷大輔
専門分野 Academic Field	西洋史学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する比較研究
<p>平成 28 年度は、平成 25 年度より科研費の採択を受けて推進してきた「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する比較研究」の研究成果を公開して、近世ヨーロッパにおける複合政体について歴史学界に総合的な議論を喚起する活動に主眼を置いた。まず上記の研究成果を『礫岩のようなヨーロッパ』（山川出版社 2016 年 7 月）として刊行し、礫岩のように寄り集まる複合政体のダイナミックな変動のなかから、「政治共同体と王の統治」と呼ばれた共和主義的な君主政の姿を明らかにした。本研究は、そうした見地から確認された近世ヨーロッパに独特な政体を「礫岩国家」として総括している。この成果をもって 2016 年 8 月にはケンブリッジ大学において各国の関連する研究者を招聘して、国際ワークショップ”A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern European States”を開催し、日本の西洋史学界における複合政体の研究を海外研究者に公開した。加えて、2016 年秋以降は、スペイン史学会大会（同年 10 月）においてはヨーロッパとアメリカを架橋する観点から、また関西中世史研究会と共催した公開シンポジウム「失われた鎖の輪を求めて～『礫岩のようなヨーロッパ』をめぐる対話」（同年 12 月）においては中世史と近代史を架橋する観点から、上記の複合政体の議論を提供した。そして 2017 年 3 月には、日本史学・東洋史学の研究者を招聘した公開シンポジウム「今、歴史的ヨーロッパを問うこと：『礫岩のようなヨーロッパ』と世界史」を開催し、西洋史学研究の最先端の知見を総合して提示した「礫岩国家」論を日本史・東洋史・西洋史の各分野を架橋する比較研究の補助線とする将来的な共同研究の実現に確信を得た。</p>	